

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0173100330		
法人名	社会福祉法人さつき会		
事業所名	多機能型グループホーム鷹栖なごみの家		
所在地	〒071-1201 上川郡鷹栖町南1条1丁目1番20号 (電話) 0166-59-3321		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	平成21年4月30日

【情報提供票より】 (平成21年1月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 12人, 非常勤 8人, 常勤換算	16.8人

(2) 建物概要

建物構造	準耐火構造・木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	光熱費 15,000 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (1月18日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5	4 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.88 歳	最低 77 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人浅井医院・鷹栖町立歯科診療所
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、鷹栖町の中心地に位置し、向かいに診療所、近くに高校や役場があるなど、恵まれた環境に立地している。鷹栖町内には、認知症の方が利用する事業所がないため、地域住民が住み慣れた場所で暮らすことを目的として、5年前に開設された。利用者は、併設している小規模多機能事業所でデイサービスやショートステイを利用した後、違和感なくグループホームに移行するケースが多い。事業所内は床などに木を使用し、ぬくもりを感じさせる造りとなっている。食堂は広く居間と分かれていて、一人で過ごす空間を充分確保している。また、機械浴を備え、車椅子の利用者も安心して入浴できる設備が整っている。「地域作り懇談会」の参加や、認知症の講座を町から依頼されるなど、町との連携も取れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回評価での主な改善課題であった面会簿については、検討し、新しい様式の採用に取り組んでいる。また、同業者との交流、理念の実践などは、今後も引き続き取り組む課題である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 今回の自己評価は職員全体で取り組んでいる。管理者は、全体会議で自己評価、外部評価の意義を話している。自己評価は全職員がそれぞれ記入し、管理者がそれをまとめる形で作成している。評価をケアの向上の機会ととらえ、これからの業務に活かそうとしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議は、原則的には2ヶ月毎に開催し、町内会長、協力医、民生委員、地域包括支援センターの職員、老人会の会長、家族、職員などが出席している。事業所の運営状態や、事故、苦情などを報告し、委員から質問や意見、要望を聞き、サービスの向上に役立っている。また、行事の手伝いの依頼や、職員の同行を拒む利用者の散歩時の報告依頼など、協力関係を構築している。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 毎月、担当職員が利用者の日常の様子や連絡を手紙で報告している。また「なごみの家」便りを定期的に発行している。家族の来訪時に声をかけをしたり、運営推進会議を通して意見、要望を聞き、意見をくみ取ろうとしている。意見、要望があれば迅速に話しあい、ケアに活かそうとしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 町民祭りや盆踊り、小学校の運動会、長生き感謝祭、社協主催の「一人暮らしの高齢者のつどい」など、地域の行事に積極的に参加している。また、地域の大正琴サークルが演奏に来たり、高校や専門学校の生徒がボランティアとして来たりし、交流している。また、運営推進会議を通して、地域の方にもちつきや掃除の協力を依頼するなど、協力関係を構築している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、住み慣れた地域でその人らしく暮らせるよう支援していくことを明記した、独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や職員ロッカーに掲示し、日々確認している。また、月に1度の全体会議でも唱和し、共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町民祭りや盆踊り、小学校の運動会、長生き感謝祭、一人暮らし高齢者のつどいなど、地域の行事に積極的に参加している。また、地域の住民が大正琴の演奏に来たり、事業所のもちつきや掃除を地域住民が手伝うなど、相互の交流を行っている。	○	今後、事業所主催の行事を考案し、地域住民の参加を呼びかけるなど、さらに地域と一体になる工夫を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価、外部評価の意義を理解し、全体会議で確認している。自己評価は全職員が記入し、管理者がそれをまとめる形で作成している。また評価後は、外部評価を全体会議で報告し、改善できるところは改善に取り組んでいる。しかし、計画的に取り組むまでには至っていない。	○	改善シートなどを用いて改善点の優先順位を付け、具体的な取り組みについて話しあうことを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の運営状況、事故、苦情などを報告し、委員から質問や意見、要望を聞いて、サービスの向上に役立っている。また会議を通して、地域住民に事業所の餅つき大会や掃除の手伝いを依頼するなど、協力関係を構築している。	○	運営推進会議を通して、地域住民との災害時の協力関係を構築することを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が町や社協、事業所主催の「地域作り懇談会」を開催し、意見交換をするなど、事業所のサービス向上にも役立っている。また、町からの依頼で認知症の講座を開催し、地域の認知症の啓蒙に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当職員が利用者の日常の様子や連絡を家族に手紙で送付し、来訪時にも様子を伝えている。職員の異動については、利用者の担当職員が異動するときに、手紙で知らせている。また、出納帳のコピーを毎月送付し、来訪時には領収書を渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議を通して意見、要望を聞いている。意見、要望があれば、速やかに対応している。苦情箱や苦情相談窓口を玄関に設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は、利用者のダメージを防ぐために、一人または二人の最小限にとどめている。異動した職員は、1ヶ月間他の職員と一緒に行動し、早く馴染めるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修を定期的に行い、職員全員が参加している。また、外部研修にも積極的に参加し、参加した職員が会議で発表して情報を共有している。新規採用職員には1年間1人の職員がつき、相談、指導する体制を整える、エルダー制度を採用している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修での交流を通して、情報交換を行っているが、ネットワーク作りや相互訪問をするまでには至っていない。	○	同業者との相互訪問の機会を作り、情報の交換や他の事業所を見学することにより、自分の事業所の良い点や改善すべき点に気づき、それをサービスの向上に役立てることを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設している小規模多機能事業所で、ショートステイやデイサービスを利用した後、グループホームに移行する利用者が多いので、馴染みの職員がいて安心である。病院から直接利用する利用者もいるが、病院でアセスメントをとり、なるべく職員と顔馴染になるように、配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意なこと、興味のあることを見極め、お正月の花を活けたり、おしぼりをたたんだりするなど、活躍できる場を支援している。日常生活動作が低下し重度化していくなかで、人生の先輩として利用者をどのように尊重し共に支え合うのか、現在模索中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所独自のアセスメントシートを使用し、利用者の意向を把握している。また、日常生活の会話、家族との会話のなかから、本人の意向や希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意見、希望を日々の生活の中で、把握している。また家族の意見、要望も聞きながら、毎月職員がモニタリング、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングや個別記録をもとに、介護計画の見直しを行っている。また、利用者に状態変化があった場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成して、家族の同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法事のために自宅に帰る支援を行ったり、誕生日に外食や日帰り温泉に行くなど、利用者の希望に合わせて柔軟に対応している。職員の同行を嫌がる利用者には、位置を把握する機械を使用し、一人でも散歩に出かけられるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所向かいの協力医がかかりつけ医となり、家族の納得のもと職員が同行して受診し、家族に状態を報告している。利用者に変化があるときは、すぐにかかりつけ医に相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期ケア指針があり、家族に説明して、家族と方針を共有している。また、事業所向かいの協力医と十分な連携をとり、家族、本人の希望を確認しながら重度化、終末期の支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報などの書類は、事務所の書庫に保管している。また職員は、利用者の個人情報の秘密保持や、利用者の尊厳や誇りを傷つけることのないように、配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重している。夜間に起きる利用者におにぎりを作ることもあり、また、職員の同行なしに一人で散歩に行きたい利用者には、位置を把握できる工夫をし地域の住民に協力を依頼するなど、その人にあった支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と共に食事をするこの意味を理解し、一緒に食事を摂っている。食事の準備や後かたづけについては、日常生活動作の低下とともに困難になってきている利用者もいるが、できる利用者には、一緒に手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的には、週2回日中に入浴している。希望があれば、夜間や他の日も対応することになっている。車椅子の利用者には、機械浴を利用し、安心して浴槽に入れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が張り合いをもてるように、夏祭りや盆踊りの参加、餅つき、散歩、歌番組の観賞、音楽会、誕生日に外食にでかけるなど、楽しみごとの支援を行っている。体を動かすことのできる利用者は、食事の準備や後かたづけ、花の水やりなどを行っている。	○	利用者の日常生活動作が低下してきているので、毎日の体操や嚙下体操等を取り入れ体力維持に努め、張り合いのある生活を送れるよう支援することを期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場には、車椅子の利用者も含め散歩支援をしている。また、ドライブ、花見、小学校の運動会の見学、紅葉狩りなど、戸外に出かける支援を行っている。しかし、冬場は外に出かける機会が少なく、利用者にも声かけしても外出を好まない場合もある。	○	今年度は、各ユニットごとに、車椅子の利用者もスムーズに外に出られるようテラスをつける予定であり、その取り組みに期待する。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、玄関にセンサーをつけ、利用者の外出を見逃さないように気をつけている。深夜間のみ、防犯のために施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。職員は救急救命講習やAEDの講習に参加している。	○	夜間を想定した避難訓練や、運営推進会議などを通して、災害時の地域の協力関係を構築することを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は個別に記録し、職員で共有している。利用者の状態に合わせ、刻み食、ミキサー食、ゼリー食などを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くゆったりとし、食堂と居間が分かれている。利用者は、それぞれ自分の居場所が確保できている。採光も充分であり、床や家具が木でできているので、木のぬくもりが感じられる、快適な空間となっている。またお風呂は、一般浴の他に機械浴もあり、車椅子の利用者が安心して入れるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の床は、洋ユニットは木、和ユニットは畳でできている。布団が好きな利用者には畳に布団を敷くなど、家庭的な雰囲気である。また、利用者の使い慣れた家具や写真を置き、居心地のよい空間となるよう配慮している。		

※  は、重点項目。